

下板橋駅周辺のまちづくりを考える

今年2月下旬、下板橋駅の南口に有料駐輪場が完成し、それに伴い、踏切も拡張されました。

両脇にちゃんと歩道ができ、車と衝突（接触）する危険性は減りました。また、有料駐輪場ができ、放置自転車は無くなりました。歩行者にとって、下板橋駅までの道が歩きやすくなり、踏切内の歩道も広がったことで、踏切での危険性も少なくなりました。

しかし一方で、車イスやベビーカー・シルバーカーを利用している人の不安は、まだ解決していません。線路の溝に車輪がはまって、転倒する可能性があるからです。キャリアバッグや台車を押して、渡る人も恐いと思います。

朝のラッシュ時の『開かずの踏切』で有名な踏切なので、閉まっても渡ってしまう人は多いのですが、もし踏切内で転倒したら、大事故になりかねないでしょう。また、踏切が開いた時、出勤で急ぐ人達は、人にぶつかりながらでも早く渡りたい訳です。その光景を見た子供達は、どんな風と思うでしょう？

鉄道会社の人から聞いた話ですが、今回の計画は、3年前から話し合われていたそうです。昨年末から工事が始まって、「あっ」という間に完成しました。

工事前よりは、歩きやすくなったかも知れませんが、しかし、地域の人々が本当の安全と安心を得るためには、まだ取り組むべきことが残されているといえるでしょう。

自分の住む町だからこそ、危険な箇所があれば、「何とかしたい」と思い、専門的ではなくても「こうなれば良くなる」という解決策を考えるでしょう。地域住民と行政・企業が一体になってこそ、良い『まちづくり』になると思います。（誰もが使いやすい下板橋駅にする会 長澤 孝）



まち

池袋本町

まちづくりニュース

Itabakuro Honcho
Machizukuri News

no.40

2006年3月31日発行

発行：池袋本町 新しいまちづくりの会
豊島区住環境整備課
問い合わせ先：住環境整備課
TEL 03-3981-0489
FAX 03-5950-0803
メール bosaichiku@city.toshima.tokyo.jp
編集協力：俣まちづくり工房

まちづくりが新しくなる ～池袋本町新しいまちづくりの会 正式発足～

「池袋本町 新しいまちづくりの会」は、2月14日（火）に正式に発足しました。これまでのご案内の通り、豊島区居住環境総合整備事業のもとで活動する協議会です。この事業は、住民と区と一緒にまちづくりを進めていこうという取り組みです。

先日、この事業の概要についての説明会が開催されました。（詳細は②③頁）

会の名称に願いを込めて・・・

会の名称は「池袋本町 新しいまちづくりの会」に決まりました。これは、会員が話し合った結果、「常に新しい気持ちでまちと向き合いたい」との思いを込めて付けた名前です。

会の目的は、「このまちを明るく楽しく生き生きと暮らせるまちにするため、協議・提案・活動すること」です。

そして、多くの人々がまちづくりに参加して欲しいとの思いから「出入りは自由（入退会自由）」としました。一般公募や町会からの推薦などにより37名の会員が集まって発足しました。

会長、副会長が選ばれました

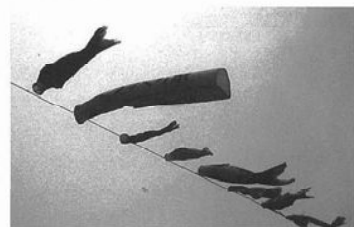
「池袋本町 新しいまちづくりの会」の役員が、1月26日（第三回準備会）に出席した会員全員の協議と投票を経て決まりました。初代会長には田中幸 郎氏（丁目）、副会長には野口 治氏（丁目）、榎原清氏（二丁目）、西野清氏（四丁目）がそれぞれ就任しました。

「防災」「環境・美化」「治安」を「三本柱」に

会の活動は、「防災」「環境・美化」「治安」のテーマ毎に各副会長が担当し進めていきます。これを活動の三本柱として位置付け、なるべく毎月毎に各テーマで話し合っていきます。

今年も鯉が泳ぎます！

防災ひろばの春の風物詩一。まちのみなさまから寄付していただいた「鯉のぼり」が、4月12日（水）から5月31日（水）に泳ぎます。（期間は予定）



つれづれに一言

安心して住める「逃げないですむまちづくり」を合言葉に発足してから9年間、行政と一緒にやってきた「池袋本町防災まちづくりの会」も、一応の成果を上げ終りました。

引き続き10年間を向け、居住環境総合整備事業として、区内で最も人口密度が高く、最も災害に弱い池袋本町地区を防災にのみならず、環境・治安・個人商店の繁栄等、地区の活性化に官民一体となり、「池袋本町新しいまちづくりの会」が本格的に活動を開始しました。

先日、NPO法人「まちづくりネットワークの会」の会合に出席する機会を得ました。池袋本町地区の四商店会にて商店相互の親睦・活性、まちづくりの推進、子どもの健全育成、福祉等の活動支援のネットワークとして発足したそうです。

私どもの会と共通する点が多く、今後協働して歩む道を見出すと、より強力な会になると思います。（会長 田中幸一郎）

守る

子どもを守る③ 親として PTA会長として

「普段からのつながりがないと、まちの子どもたちに声をかけにくい」

池袋本町にある二つの小学校の、PTA会長さんお二人はおっしゃいます。

今、子どもの環境は危険にさらされています。全国各地でさまざまな試みがされていますが、PTAの取り組みや、思いについてお話をうかがいました。

広島と栃木での事件の直後、校長先生と相談し、PTA独自に腕章と笛を用意し、日常的な外出の時にも活用しているという池二小の佐藤義政さん。「よその子」にも注意できる風土づくり、挨拶が交わされる顔の見えるまちづくりについて語る文成小の林順子さん。活動的なお二人です。

お二人の思いは、「子どもと大人の、世代を超えていくつものひとの輪」づくりの大切さです。そのために

最も有効なことは、地域の催しに積極的に参加し、おたがいが顔なじみになること・・・

例えば登下校途中に、また日常的に、「おはようございます」「いってらっしゃい」「気をつけてね」「ありがとう」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶が、まちじゅうに響きわたる。なんてすばらしいことでしょう。そんなまちは、まさに「見守りのまち」になることでしょう。

子どもが育つ環境としての安全・安心のまちは、お年寄りにとっても、安心・安全のまちです。コミュニケーションのあるまち、事故や犯罪の起きにくい、住み続けたいまちと子どもへの思いが伝わってきます。

（取材：青山、大畑、秋田）



文成小PTA
会長 林順子さん



池二小PTA
会長 佐藤義政さん

さまざまな「まちの情報」を教えてください！
「ためになる」「おもしろい」「埋もれている」など、まちの話題は事務局まで！